



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

宮城県 気仙沼市立松岩中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、  
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、  
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



**1コマ目**

**運動の時間 / 50分**

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

**2コマ目**

**座学の時間 / 50分**

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、  
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、  
今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基  
づく「オリンピックの価値」等を  
伝える



個人またはグループワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年7月12日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・アトランタ1996大会にバスケットボール競技の女子日本代表として出場したと自己紹介した後、現役時代は「アケ」と呼ばれていたため、皆にも「アケ先生」と気軽に呼んでほしい。バスケットボールを使用した運動を行うが、バスケットボール教室ではなく、誰でも楽しめる内容を行うので、積極的に参加してほしい。約束事として、「明るく楽しく授業に取り組む」「アイデアを出し合いながら取り組む」「説明時はボールを床につかない」の3つを守りながら参加してほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動等



・準備運動として、1人1球バスケットボールを使用して、ボールハンドリングや準備体操を実施。  
 ・主運動では、①パス回し競争(全3回)と、②シュート競争(全2回)を実施。  
 ①班毎に分かれて円を作り、ボールを持っている生徒の両隣以外の生徒にパスを回し、連続でパスできた回数を競う。  
 ②各班5球ずつボールを持ち、シュートが入ったら、ボールをゴール下のマーカーの上に置き、如何に早く5回シュートを決められるかを競う。



・運動の時間を振り返り、冒頭に伝えた3つの約束事を覚えているかを生徒へ確認し、皆がルールを守りながら、得意・不得意がある中で積極的に参加してくれていたと称え、拍手を送り合った。座学の時間では、オリンピックバリューの3つの価値について、オリンピックに出場するまでや、出場した際の経験も話しながら、掘り下げて考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック/アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年7月12日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年1組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・競技の映像を見せながら自己紹介を行った後、東京2020大会や北京2022冬季大会が開催され、皆もテレビ等で観戦したと思うが、オリンピックに、どのようなイメージがあるかを問い掛け、近代オリンピックは、フランス人のピエール・ド・クーベルタンによって、健康な肉体と健全な精神を持った若者たちが世界各国・地域から集い、スポーツを通して交流を深めることで社会の発展を促し、世界平和につながる思いで創設された。オリンピックシンボルについて、5つの輪が5大陸を表し、使用されている6色で、ほぼすべての国旗を描くことができると説明。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問① : 運動の時間を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。  
 発問② : 学校生活や日常生活を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。  
 発表 : エクセレンス : 「①シュートをたくさん打った」「②部活動や勉強を頑張る」等  
 フレンドシップ : 「①名前を呼びながらパスをした」「②グループで話し合いをする」等  
 リスペクト : 「①ルールを守った」「②給食を作ってくれる人に感謝する」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューについて考えてもらったが、オリンピックバリューの3つの価値はオリンピックに出場した選手だけのものではなく、皆の日常生活にも当てはめて考えることができる。リスペクトを考える際に、人に対してのリスペクトを思い浮かべ、自分自身へのリスペクトも忘れないでほしい。自分自身の可能性を信じ、失敗することで成長につながるため、失敗を恐れず何事にも挑戦してほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック/アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年7月12日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年2組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・アトランタ1996大会にバスケットボール競技の女子日本代表として出場したと自己紹介した後、現役時代は「アケ」と呼ばれていたため、皆にも「アケ先生」と気軽に呼んでほしい。バスケットボールを使用した運動を行うが、バスケットボール教室ではなく、誰でも楽しめる内容を行うので、積極的に参加してほしい。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「素晴らしい」「諦めない」、フレンドシップ：「友達」「仲良く」、リスペクト：「敬意/尊重」と伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備運動として、1人1球バスケットボールを使用して、ボールハンドリングや準備体操を実施。  
 ・主運動では、①パス回し競争(全3回)と、②シュート競争(全2回)を実施。  
 ①班毎に分かれて円を作り、ボールを持っている生徒の両隣以外の生徒にパスを回し、連続でパスできた回数を競う。  
 ②各班5球ずつボールを持ち、シュートが入ったらボールをゴール下のマーカーの上に置き、如何に早く5回シュートを決められるかを競う。



・運動の時間を振り返り、より良い結果を残すにはどうしたら良いか、様々な意見を出し合い、作戦を考えていた姿が素晴らしかった。座学の時間では、冒頭に説明したオリンピックバリューの3つの価値について、オリンピックに出場するまでや、出場した際の経験も話しながら、掘り下げて考えていきたいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック** : 岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック/アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年7月12日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年2組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・映像を見せながら自己紹介を行った後、オリンピックにどのようなイメージがあるかを問い掛け、近代オリンピックはフランス人のピエール・ド・クーベルタンによって、健康な肉体と健全な精神を持った若者たちが世界各国・地域から集い、スポーツを通して交流を深めることで、社会の発展を促し、世界平和につながる思いで創設された。自身のオリンピックバリューについて、身長が高いことがコンプレックスだったが、中学2年時に日本代表の試合を見て、オリンピックに出場することが夢となり、家族や仲間へ支えてもらいながら、練習を続けた結果、オリンピックに出場することができたと伝える。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問① : 運動の時間を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。  
 発問② : 学校生活や日常生活を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。  
 発表 : エクセレンス : 「①失敗しても何度も挑戦した」「②ボランティアに参加する」等  
 フレンドシップ : 「①積極的に声掛けをした」「②挨拶をする」等  
 リスペクト : 「①ルールを守った」「②親や先生に感謝する」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューについて考えてもらったが、オリンピックバリューの3つの価値はオリンピックに出場した選手だけのものではなく、皆の日常生活にも当てはめて考えることができる。リスペクトを考える際に、人に対してのリスペクトを思い浮かべ、自分自身へのリスペクトも忘れて自分で自分自身の可能性を信じ、失敗を恐れずに何事にも挑戦してほしい。今後の生活で様々な壁にぶつかることもあると思うが、オリンピックバリューの3つの価値を思い出して乗り越えてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

